SUMITOMO

住友建機 リサイクル紀行

Vol.46 寺田商店（三重県）

三重県北部に位置する桑名市は、かつて東海道五十三次の桑名宿が置かれた交通の重要拠点だ。名古屋から近く、充実した交通網を有したベッドタウンとして現在も住宅開発が進んでいる。桑名は鋳物が名産の街でもある。近隣で原料砂が見つかった明治以降は「東の川口、西の桑名」と呼ばれるほどに産業が発展した。この地で鋳物向けのリサイクル原料を扱う寺田商店（本社＝桑名市明正町、黒田正義社長）の黒田貴之取締役営業部長を訪れた。

拠点所在地

鋳物に特化したリサイクル ジャストインタイムで原料供給

寺田商店は鋳物に特化した全国で有数のリサイクラーだ。一般的に鋳物原料は、可鍛コロ、故銑、新断、銑ダライ粉の4つに分類される。寺田商店は可鍛コロを除く3品種を製造販売するほか、銅ナゲットなどのスクラップ由来の副資材も販売している。

月間取扱量は4000～5000㌧で、このうち9割以上を鋳物向けが占める。金属リサイクル企業から調達する原料の母材は、愛知県を中心に、中四国地区や関東地区からも商社を通じて仕入れているという。

ユーザー向けの鋳物原料は品質や成分、サイズの管理を徹底した良質なものだけが販売される。原料溶解用の電炉投入時に水蒸気爆発を引き起こす水分の含有は厳禁のため、原料は室内で加工・保管する。スクラップは異物の除去や成分ごとの管理を徹底。新規取引時のスクラップは成分分析を必ず実施する。

短尺加工は故銑（鋳物）割機と油圧シャーで行う。このシャーを用いた加工も特徴的だ。一般的な鋼スクラップは刃を上下させて切断するが、粘性が高いダクタイルを切断加工する鋳物用のシャーは、刃をスクラップに絡ませるようにねじり切る。

2013年に移転した本社工場

鋳物原料の出荷はユーザーの発注に応じた『ジャストインタイム』方式で行う。営業部門を統括する黒田貴之取締役は「価格変動によるリスクもあるが、これを抱えることも我々の事業の特徴」という。寺田商店は長年にわたりこうした鋳物原料に特化したノウハウと商売の実績を積み重ねてきた。これがユーザーからの信頼と安定した商売につながっている。

会社は1954年に桑名市萱町で創業。1987年に桑名市福島に移転した。かつて関連会社で鋳物製造も行っていたが、地場の製造業の海外移転などを受けて2000年代初頭に原料事業に一本化した。

2013年に移転した現在地は、もともと取引先の金属加工会社が所有していた工場で、事務所や工場建屋を居抜きで譲り受けた。敷地面積3000坪は旧工場のおよそ3倍。移転時に故銑割機の増設と油圧シャーの入れ替えを行い、取扱量は2倍以上に伸びた。「より幅広い要望に応えられるようになった」（黒田取締役）という現在地への移転は、寺田商店が躍進する大きな転機となった。

産業支える仕事に「誇り」 満足度高めるサービスを追及

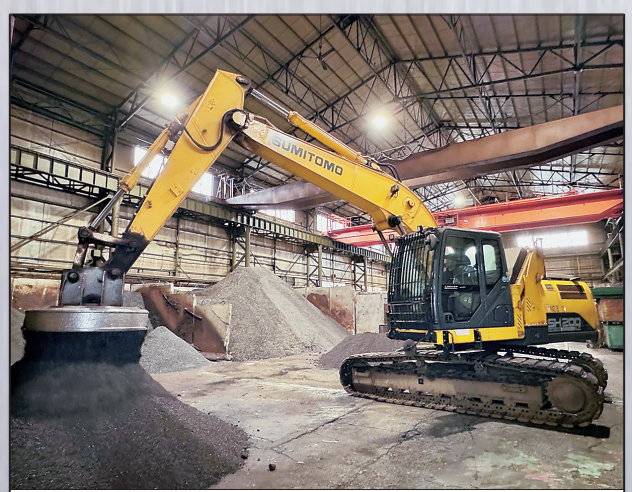
黒田貴之取締役

技術、環境、経済など世の中の変化が絶えず続く中、鋳物業界も大きく変わっている。桑名の鋳物製造は人口減や製造業の海外移転が進んだ平成に衰退。自動車産業においては、ギガキャストや電気化に伴う動力のモーター化によって金型レスの流れが進んだ。また、インフラ整備などの公共投資の減少はマンホールやグレーチングなどを製造する鋳物事業者を直撃している。こうした変化に黒田取締役も「常に情勢を注視しなければならない」と引き締める。

一方で、工作機械や自動車部品に鋳物が多く使用されていることも指摘しつつ「日本の大事な産業を形成するために無くてはならない産業だ。その川上と川下をつなぎ、大切な産業を下支えする鋳物リサイクルの仕事を誇りに感じている」と前を向く。時代の変化に対応しながら、次世代へのノウハウ継承や機械化などによる属人性の低減なども図っていく構えだ。

変わらないものもある。寺田商店では商売における信条として「常にサービス業の意識を持っている」という。仕入先や販売先だけではなく、利益に直接結びつかない取引先も寺田商店は大切な顧客と捉えている。自社で働く社員も含めて、関わりを持った全ての人たちの満足度を高めるサービスや価値の創造を今後も続けていく。

～住友建機がある風景～

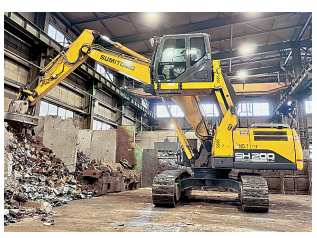

SH200LC-7LM（ダライ粉ヤード）

寺田商店では2025年9月現在で3機の住友建機製マシンが稼働中だ。このうち2機のSH200LC-7LMはスクラップの荷役に用いるマテリアルハンドリング機として工場の運用を支えている。

住友建機を三重県で初導入

寺田商店で稼働するSH200LC-7ECは大割機のアタッチメントを装着しており、鋳物切断加工の前処理で活用している。この大割機は寺田商店とアタッチメントメーカーが共同で開発したオリジナルのものだ。刃の構造や取り付け位置、肉盛りの加減など、その仕様は門外不出となっているが、重機を用いた前処理によって、その後の処理の効率化や油圧シャーなどの加工処理機械に掛かる負担低減に大きな効果を発揮している。

住友建機製のマシンは、2008年10月に旧工場に導入したSH225X-3LMが初号機だった。同機は三重県における住友建機製リサイクル機においても初のマシンだ。実績ゼロでの採用ではあったが、「デモ機の設置からテスト運用、細かなやり取りなど、導入に至るまでの対応を社長が高く評価したことが決め手になった」（黒田取締役）という。導入後も機械性能や保守・サービス、新規提案など、住友建機の対応は期待にたがわぬものが続いている。


SH200LC-7LM

黒田取締役は「住友建機の機械やサービスがあるからこそ工場が円滑に稼働できる」と感謝を述べた上で、今後も変わらないサービスの提供を求めている。

担当：田窪 浩二

重機初導入よりご愛顧いただき有難うございます。これからもサービスと一丸になってクイックレスポンスを心がけてまいります。

住友建機販売株式会社 鈴鹿営業所
〒513-0031 三重県鈴鹿市一ノ宮町字池674-1
Tel：050-9001-8641 Fax：059-383-9513